

MUSEUM OF FINE ARTS,  
BOSTON.

April 27<sup>th</sup>

1909

Dear Sensei

We are to be lucky in Boston if your brother will accept the Lowell Institute lectureship for next winter.

It will mean a great deal to have a fresh bond with Japan — and his coming will make one.

Please tell him about the lectures — how they rank above any of the undergraduate teaching at Harvard, and how

many famous men they bring<sup>(2)</sup>  
over to us  
Also, if he cares to do it,  
there are other lectures to  
be delivered — at Cambridge,  
in Chicago and in New York  
We are all excited about his  
coming, and the Museum means  
to try his patience in all sorts  
of ways

### 親愛なるセンセイ

先生の弟さんに、次の冬期のローウェル学院※の講演をお引き受け頂けたとしたら、ボストンに居るものは幸運であります。日本との新たな絆を持つことは非常に大きな意味がありますが、弟さんがボストンに来られれば、必ずやそのような絆を形作るに違いありません。

弟さんに、この講演会についてご説明下さい。すなわち、これらがハーヴァードにおける学部レベルのいかなる講義よりも高く格付けられ、いかに多数の著名な人物をわれわれにもたらしてくれたかを。

また、もし彼が引き受ける気があれば、この他にも、ケンブリッジ、シカゴ、およびニューヨークにおける講演の可能性もあります。われわれは、彼の来訪に興奮しており、当美術館としましては、ありとあらゆる方法で、彼の忍耐力に挑戦を試みる所存であります。  
(後略)

<訳文は、石橋智慧訳『岡倉天心全集 別巻』平凡社所収より転載>

※ ローウェル・インスティテュートのこと。1836年ローウェル家によりボストンに設立された財団であり、ボストン市民に向けて一流の講師陣による高水準の公開講演コースをシリーズで開設した。ここから講演を依頼されることは名誉なことであった。